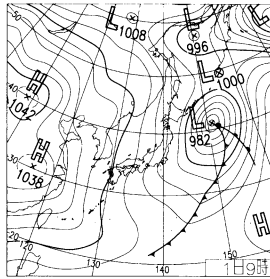


日々の天気図

— No. 36

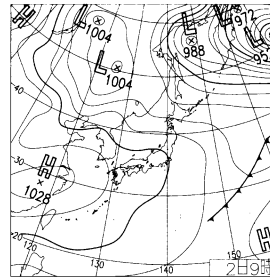
2005年1月

- ・ 8日～13日、強い冬型の気圧配置が続き、北日本や日本海側で大雪
- ・ 15日～16日、低気圧の接近で東北～関東甲信で大雨や大雪、銚子市の日雨量205mm、1月の記録更新
- ・ 30日～31日、強い寒気が入り、北日本を中心に強風・大雪
(気象庁予報部予報課)



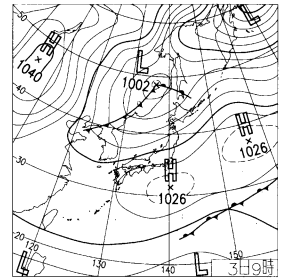
1日(土)日本海側降雪続く

冬型の気圧配置強まり、日本海側は雪やみぞれ。太平洋側は晴れ、南西諸島は曇り。岐阜県白川村で9時までの24時間に降雪量40cm。東京は前日の積雪が残る。



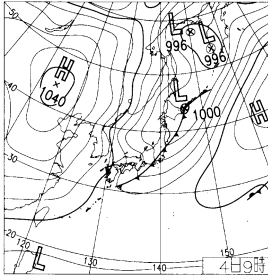
2日(日)東京今冬初の氷点下

寒気の影響で北日本の日本海側は雪、その他は晴れ。太平洋側は放射冷却現象も加わり朝の気温が平年に比べ約4℃低く、東京は今季初の氷点下。関東以西の所々で初氷、初霜。



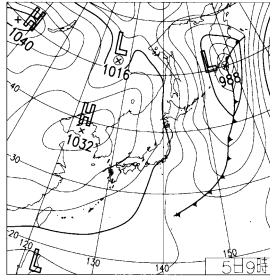
3日(月)全国的に南風

沿海州から接近する低気圧により、北日本を中心に全国的に南風。日中の気温は3月中旬～下旬並。仙台市や新潟市の最高気温は約半月ぶりに10℃を超える。



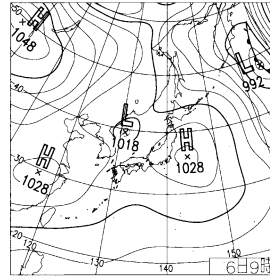
4日(火)関東4月中旬並の暖かさ

北日本～西日本を寒冷前線が通過。地形的に寒気の入りにくい関東では、前日入った暖かい空気が日中の晴天によってさらに昇温。東京の最高気温は平年より8℃以上高い18.5℃。



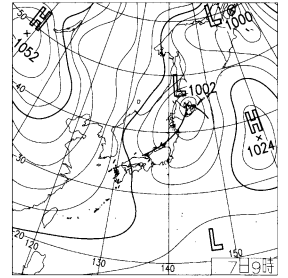
5日(水)真冬並に寒の入り

強い冬型気圧配置により日本海側は雪や雨。山陰や北陸では雷を伴う。太平洋側は晴れ。寒気が覆われ日中の気温はほぼ全国的に平年より2～4℃低い真冬並。東京は8.1℃。



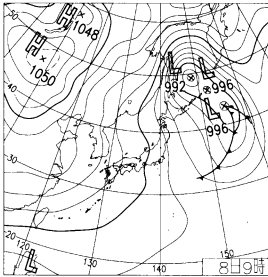
6日(木)東・西日本弱い雨

気圧の谷の影響で、東・西日本は雨、北海道の一部で雪の他は曇り。九州では、朝の気温が高く3月並。インドネシアでスマトラ沖地震被災国支援緊急首脳会議を開催。



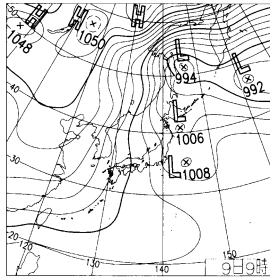
7日(金)石垣島桜が開花

寒冷前線が北日本を通過し、北日本は雪や雨。その他は太平洋側を中心に晴れ。関東の最高気温は平年より高く、横浜市は4月上旬並の15.2℃。石垣島でヒカンザクラの開花。



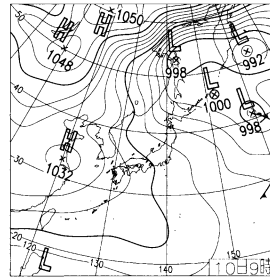
8日(土)全国的に気温が下がる

西高東低の冬型気圧配置。山陰以下は日本海側で雪。全国的に気温が下がり、最高気温は前日より3～6℃低い。札幌は-3.3℃の真冬日。尾鷲で平年より19日遅い初雪。



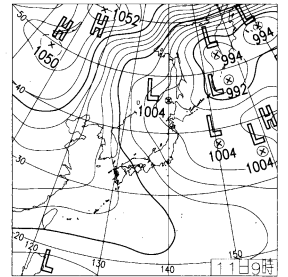
9日(日)日本付近は強い冬型

秋田市の上空約5400mに-38℃以下の寒気が入り、強い冬型の気圧配置。日本海や黄海には一面に筋状雲が広がる。9時までの24時間降雪量は青森市53cm、新潟県魚沼市45cm。



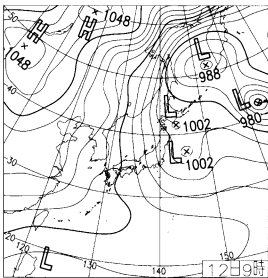
10日(月)鹿児島初雪

冬型気圧配置続き、北陸から北の日本海側は降雪続く。9時までの24時間降雪量は、新潟県十日町市58cm等、新潟県中越で50cm超。鹿児島市ではほぼ平年並の初雪。



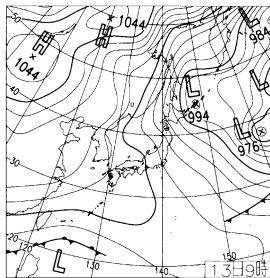
11日(火)北日本寒気流入続く

新潟県輪島市の上空約5400mに-37.7℃の寒気が流入。北陸～東北、北海道で雪。福島県只見町で9時までの24時間に降雪量67cmの大雪。北海道陸別町では最低気温-29.1℃。



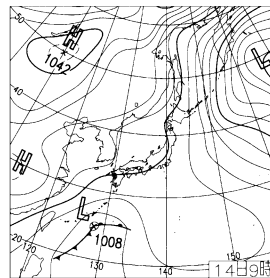
12日(水)日本海側大雪続く

北日本の上空に-42℃以下の寒気があり、冬型気圧配置が強まる。北陸～北海道の日本海側で大雪が続き、9時までの24時間降雪量は、新潟県十日町52cm、山形県大蔵村50cm。



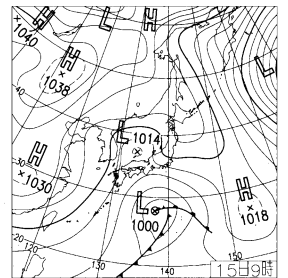
13日(木)強い寒気東に抜ける

上空の寒気は北海道の東海上に抜ける。冬型気圧配置は西から緩みに抜ける。冬型気圧配置は西から緩みに抜ける。日本海側の降雪も弱まる。札幌は最高気温が2.0℃で、5日間続いた真冬日から解放。



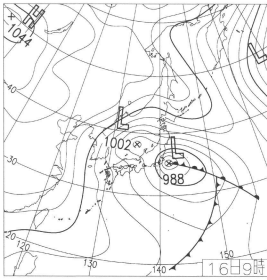
14日(金)冬型気圧配置弱まる

冬型気圧配置は緩み、日本海側でも晴れや曇り。沖縄の南で低気圧が発見し、発達しながら北東進。午後は関東から西は曇りで、九州南部で雨が降り出す。



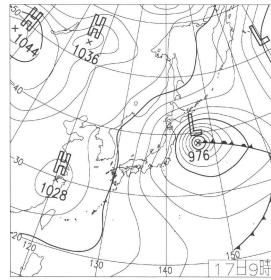
15日(土)台風第1号発生

本州の南岸を低気圧が北東に進む。関東北部と東北太平洋側で雪、関東南部～九州北部は雨。その他は概ね曇り。熊本県で震度4の地震。台風第1号がカロリン諸島で発生。



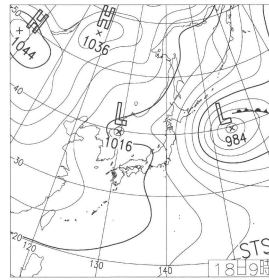
16日(日) 銚子市記録的豪雨

低気圧の接近で関東南部は大雨。関東北部～東北南部は雪。栃木県栗山村で9時までの24時間降雪量51 cm。千葉県銚子市の日雨量205 mm。1月の日雨量記録を107年ぶりに更新。



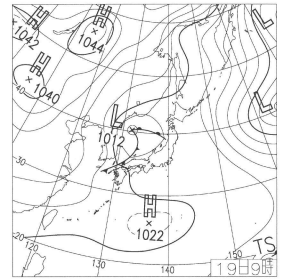
17日(月) 太平洋側で大しけ続く

三陸沖の発達した低気圧により、北日本や日本海側は雪や雨。北日本の太平洋側では大しけの状態が続く。関東以西の太平洋側は概ね晴れ。



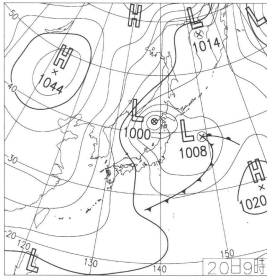
18日(火) 釧路支庁で震度5強

発達した低気圧は日本のるか東海上に進む。北海道の一部で強風が続く。他はほぼ全国的に穏やかな天気。新潟市の最高気温は3月中旬並の8.6℃。北海道釧路支庁で震度5強。



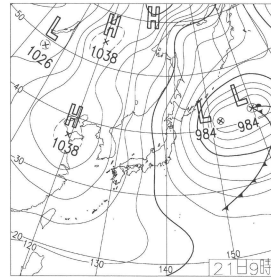
19日(水) 三宅島で津波を観測

前線を伴った低気圧が日本海をゆっくり東進。日本海側が雨の他は晴れや曇り。関東東方沖でM6.8の地震。三宅島で30 cmの津波を観測。北海道枝幸町に流水漂着。



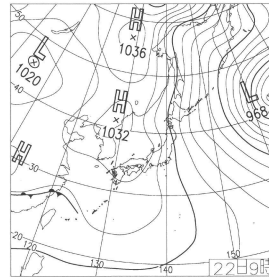
20日(木) 南大東島ウグイス初鳴

低気圧や寒気の影響で、日本海側は雪や雨。太平洋側は曇りや晴れ。南大東島の昨年より22日早いウグイスの初鳴は最早の記録。



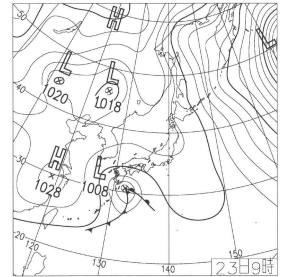
21日(金) 流水接岸

冬型の気圧配置が強まる。中国地方から北の日本海側では雪、その他は晴れ。群馬県水戸町で9時までの24時間に67 cmの降雪。北海道の猿払村～北見町の海岸に流水接岸。



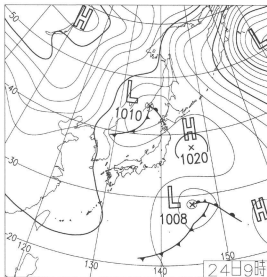
22日(土) 函館10日ぶりの真冬日

冬型の気圧配置は西日本から弱まり、日本海側の降雪は峠を越す。北海道は寒気が抜けず、函館市では10日ぶりの真冬日。九州には、長江河口域から次の気圧の谷が接近。



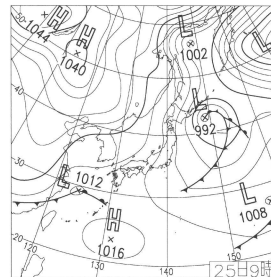
23日(日) 鹿児島県で激しい雨

低気圧が九州南岸を東進。九州・四国・中国で午前中を中心に雨。鹿児島県内之浦町では95 mm/3hの激しい雨。関東は北東気流で、最高気温は平年より5℃前後低い。



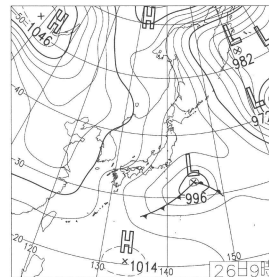
24日(月) 北海道に低気圧接近

高気圧は日本の東海上に進み、代わって日本海北部の低気圧が北海道に接近。全国的に曇りや雪の所が多く、北海道は所々で雪、九州北部は雨。米国の中・西部～北東部で大雪。



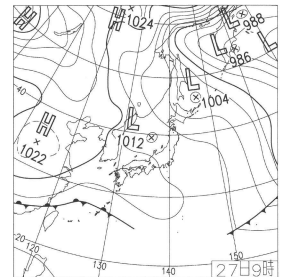
25日(火) 高松ヒバリ初鳴

北日本は冬型の気圧配置で、日本海側は雪。東シナ海で低気圧が発生し日本の南海上に進む。西日本は午後から雨。その他は晴れや曇り。高松市でヒバリの初鳴。



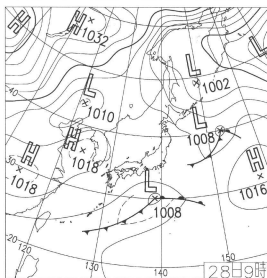
26日(水) 北海道下川町-32.1℃

寒気の流入と本州南岸の低気圧の影響で、関東～北海道は雪や雨。その他は曇りや晴れ。北海道下川町の最低気温は全国で今季2度目の-30℃以下。福岡市でウメが開花。



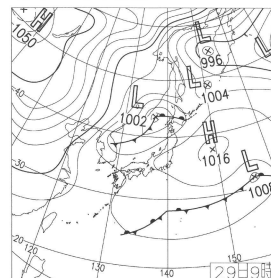
27日(木) 沖縄4月中旬並

日本海の低気圧により、東北の日本海側を中心に雨や雪。華南からのびる前線の接近で九州～近畿は雨。前線の南側にあたる沖縄の最高気温は、平年より4～5℃高い4月中旬並。



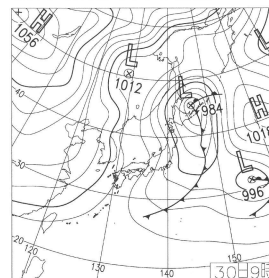
28日(金) 暖かく穏やかな天気

北海道は寒気により雪。南西諸島は前線や寒気の影響で雨。その他は高気圧に覆われ穏やかな晴れ。最高気温は西日本で平年より4～5℃高い3月中旬並。前橋市でウメの開花。



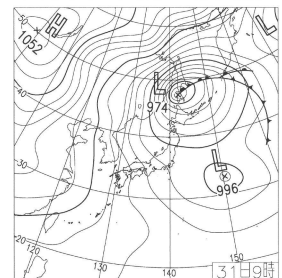
29日(土) 全国的に3月～4月上旬並

高気圧が本州の東に抜け、日本海を低気圧が東進。北海道は雨や雪、高気圧後面の東海・関東は所々雨。その他は概ね晴れ。南風が入り全国的に3月上旬～4月上旬の暖かき。



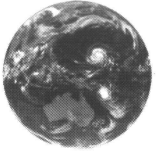
30日(日) 低気圧発達冬型強まる

北海道を通過した低気圧がオホーツク海で発達。札幌市の上空約5000 mには今冬一番の-43℃以下の寒気が入り、冬型の気圧配置が強まる。岩手県石巻市で最大瞬間風速31.5 m/s。



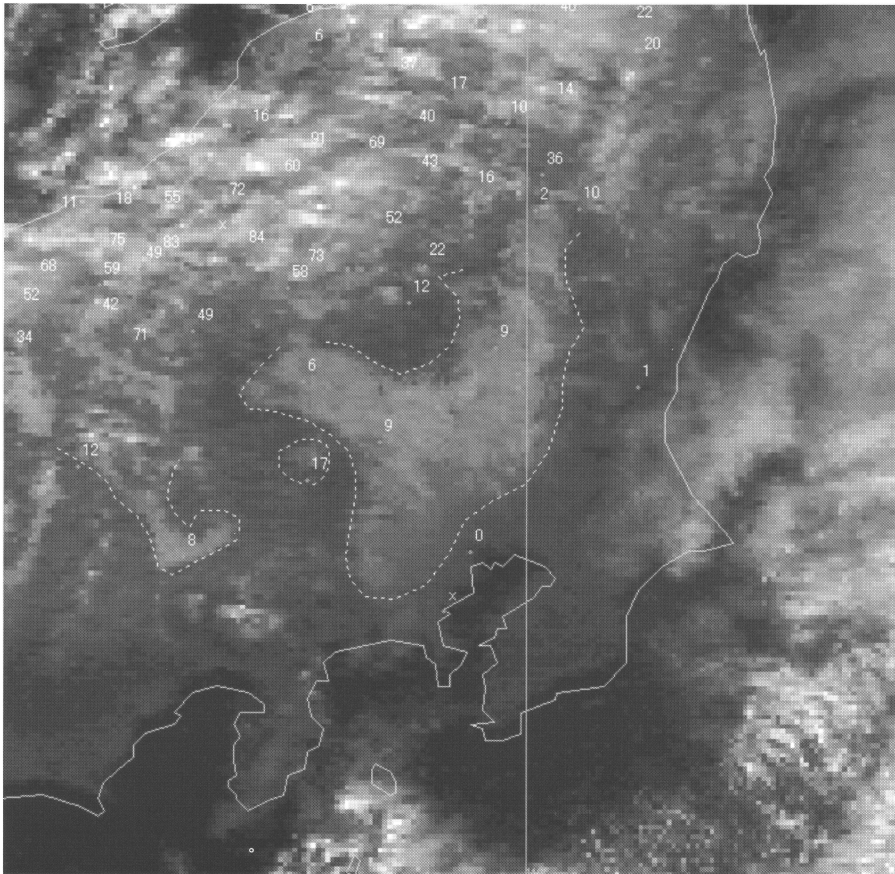
31日(月) 日本付近に強い寒波

強い冬型の気圧配置で日本海側は雪。九州南部は雨やみぞれ、沖縄は曇り。太平洋側は概ね晴れ。函館市の最深積雪58 cm。1月として2位の記録。甲府市でツバキが開花。



今月の衛星画像—2005年1月

元日の雪景色



2005年1月1日午前11時の可視画像
数値：午前11時の積雪 (cm)

写真は2005年1月1日午前11時の可視画像である。関東地方の平野部を中心に灰白色の部分が見られる(破線)。これは前日大晦日、低気圧が関東の南沖を通過した際にもたらした積雪である。低気圧に伴う雲は房総半島の一部に残っているものの全般的に関東平野の上空はよく晴れており積雪の様子がよくわかる。積雪は太陽光の反射強度が大きいため可視画像では白色域として表現される。積雪表面は比較的滑らかで、融解などによる変形は非常に緩やかなので雲域との識別

は容易である。なお、関東山地など山間部に積雪がないように見えるが、これは草や樹木の植生等により積雪の反射が妨げられたためと考えられる。

通過した低気圧の中心に近かった関東南部や東部では雪から雨に変わったり、雨だったため積雪のあった地方も雪解けが早く、この時間積雪はほとんど確認できない。東京では前日積雪2cmを観測したが、この日午前中に消滅した。

(気象衛星センター)